

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北陸)	良く なっている	家電量販店（店長）	販売量の動き	・連日、真夏日となり、夏物商品、特にエアコンの販売が伸びている。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比総売上143%、宿泊人員127%、宿泊単価114%と北陸新幹線開業効果が継続されている。特に1名から14名までの個人グループ客の伸びは151%となっており、宿泊単価のアップにもつながっている。客室稼働も95%となっている。
	やや良く なっている	一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・前半はバーゲンの影響で集客が多く、後半には当地に大型のアウトレットモールができたが、影響は思ったより少なかったように思う。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・若干、北陸新幹線開業効果の中だるみが出てくるかと懸念したが、目立った落ち込みはなく依然好調を維持している。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・クリアランスセールが本年は7月1日スタートとなり、7月の売上高は6月下旬の買い控えによってマイナスとなった売上高をカバーしただけでなく、6～7月の夏商戦全体においても前々年実績及び前年実績を超えて好調に推移している。特に、晩夏物などの定価品の動きが堅調であり、全体をけん引している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・周りの商業施設全てでセールのスタート日が一緒だったことから、例年よりも買い回りが多くみられ、出だしは売上が思うように伸びなかった。7月中旬に大型アウトレットモールがオープンし、そちらに行く人が多かったせいか、半ばの週は静かな日が続いた。しかし、苦戦していた婦人服も、後半には持ち直した。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・私たちコンビニ業界では店舗単体の景気は悪い。本部やエリアベースでは、出店数が閉鎖店数を上回り全体の店舗数が増えているため、前年比で売上や利益は増加しているが、私たち既存店ベースでの売上は数年前とは比べ物にならないくらい落ちている。そんな中で、やや良くなっていると回答したのは3か月前や前年との比較などでようやく100%を超えてきたからである。とはいえ、数年間下がりにつながった売上を、ここ数か月だけ前年比で上回っただけなので全体の景気としては間違いなく悪いと感じている。
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・原材料の高騰による利益の圧迫はある。しかし、前年比でみるとそれを補って余りある来客数増加に支えられ、業績は好調である。天候に恵まれてもいる。
		住関連専門店（店員）	競争相手の様子	・地域初のアウトレットモールや、大型ショッピングセンターのオープンが相次ぎ、消費者マインドとしては消費に使うお金のやりくりを意識している部分は多い。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	販売量の動き	・気温が低く、夏物衣料品やUVケア関連、涼感寝具の苦戦が続いていたが、7月中旬以降気温が上がり、店頭での動きが良くなってきた。しかし、隣県で大型のアウトレットモールがオープンしたことで、特に衣料売場が影響を受けている。また、昨年大ヒットした商品のおかげで異常値となった玩具の実績分が取戻せない。食料品は引き続き野菜など生鮮品の相場高が続いている中、消費者は特売などを利用して上手に工夫して買物をしている。いくつかの地域でプレミアム付商品券の利用がスタートし、出足は大変良い。事前の想定通り、食料品への利用が大半を占めている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・北陸新幹線効果で宿泊中心に堅調に推移している。若い人からシニアまで来客層も広がりを感じる。一方で、地元客は回復しているとは感じられない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・全体的に好調を維持している。7月は夏休みに入り、家族連れの利用がある。花火大会やその他のイベントがあり、忙しくなっている。
通信会社（役員）	販売量の動き	・通信契約の獲得数から解約数を差し引きした純増減数が5月から連続してプラスとなり、今月は2年間で最高値となった。		
通信会社（店舗統括）	販売量の動き	・こちらからのお得な提案に対して客が話を聞いてくれ、また契約につながるケースが以前より増えてきている。		

	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・北陸新幹線開業の効果による話題性もあり、特に国内の団体客及び、円安によるインバウンド客の動きが好調で、2けたの伸びとなっている。個人客は横ばいだが、全体としては3か月前より良くなっている状況である。
変わらない	商店街(代表者)	来客数の動き	・今月は隣県に大型商業施設が2つもオープンしたが、あまり影響はなかった。夏のセールの時期と重なり、プライスにさほどインパクトがなかったのではないかと思われる。
	一般小売店[事務用品](店員)	お客様の様子	・設備投資している企業と儉約している企業があるが、当社の売上は前者に頼る傾向があり、全体の底上げにはなっていない。
	一般小売店[書籍](従業員)	来客数の動き	・客単価、販売量とも悪いが、来客数の落ち込みが一番目立つ状況である。
	スーパー(店長)	単価の動き	・夏のボーナス支給後のお中元ギフトの状況をみても、さほど高単価の商材は売れず、台風などの影響で野菜、果物ともに入荷状況が乱れている。相場高も続いており、好景気になっているとは思えない。
	スーパー(総務担当)	販売量の動き	・7月中旬から気温が上昇し、35度前後の日が続いたため、衣料品の売上は急上昇した。しかし食料品の売上は前年並みのため、決して景気が良いとは思えない。必要なものを購入している。
	スーパー(総務担当)	販売量の動き	・食料品の値上げが続き、1点単価アップながら販売量も昨年並みで推移していることから、横ばいと感じる。
	スーパー(統括)	単価の動き	・単価の動きは3か月前と比較すると変わらない状況である。1品単価や取引件数では、以前からみると好調な状況が現在も維持されている。若干、1品単価が上昇して全体の客単価が上昇しているということで、客の購買は好調なまま推移している。
	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・消費税増税後、本来は客単価が上昇しなければならないのだが、単価は微増で来客数が微減といった感じで、トータル的には、変わっていないという状態である。
	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・スポット的に大量の弁当の予約があったり、土日のイベント日の天候に恵まれたりしたことから、数字は前年よりもやや良いところもあるが、基本的なウィークデーの売上が変わらないのが、悩ましいところである。
	衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・当地では大型ショッピングセンターの相次ぐ開業や天候不順の影響もあり、売上は大変厳しい。
	衣料品専門店(経営者)	単価の動き	・現況を一言で言うならば、一進一退ということである。大きな上下運動はない。小さな上下運動を繰り返しているように感じられる。明るそうな情報を強いて言えば、販売単価が多少上昇しているように感じられる。しばらく様子を見る必要があるが、良い変化の前兆であればよいと思う。
	乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・販売の柱である軽自動車の販売量が大変少なく、苦戦している。
	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・全社合同のイベントを実施し、そこそこの来場者数ではあったが、大きく売上には結びついてはいない。
	乗用車販売店(役員)	販売量の動き	・北陸新幹線のおかげで地域としては好影響の恩恵を受けていると思っているが、自動車販売には寄与していない。販売動向としては前年並みで推移している。
自動車備品販売店(従業員)	お客様の様子	・集客面は依然厳しく、高額商品は敬遠される傾向が続いているが、メンテナンス関連は伸びている。安価で車両メンテナンスを行いたいという客の声もあり、景気面では変わっていないと思われる。自動車販売では中古車需要は高くなっており、特にモデルチェンジ前の大型車両の動きは活発である。	
その他専門店[酒](経営者)	来客数の動き	・7月はお中元というイベントがあり始まりは良かった。プレミアム付商品券などをからめて購入していくという客が多数いた。中旬あたりからは、それほど商材が動かなくなった。トータルとしては例年より少し減少しており、良くなかった。	
その他小売[ショッピングセンター](統括)	来客数の動き	・今夏、北陸エリアには大型商業施設が相次いで新規開業した。その影響で既存店の集客が一時的に落ち込んでいる。今後、消費者がどのような動きをするのか不透明である。	

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・北陸新幹線開業による効果は少し薄れ、来客数の伸びは10%以下だが高単価の利用は変わらず目立っている。
	一般レストラン (統括)	来客数の動き	・飲食店について、北陸新幹線開業時の接客対応が良かった店は伸びており、悪かった店は徐々に下がり始めている傾向である。今月から良いところと悪いところの差がみられ始めている。飲食全体としては変わらない。
	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・北陸新幹線開業以来、入込人数が増加しており、7月も前年比20%ほど増えている。
	都市型ホテル (役員)	販売量の動き	・宿泊部門は北陸新幹線開業以降、ビジネス客及びインバウンドの増加により順調に推移している。レストラン部門はプレミアム付商品券発行の特需を期待するが、力強さは感じられない。宴会部門の法人利用も足踏み状態にある。
	旅行代理店(所長)	来客数の動き	・北陸新幹線開業プ・ムが一段落し、来客数や申込数が落ち着いてきた感じである。
	タクシー運転手	販売量の動き	・例年、暑いからとタクシーを利用する年配者がいたが、それで増加したという感じはない。
	通信会社(営業担当)	販売量の動き	・タブレットに興味を持つ客が継続して来店することと、他社からの乗換えをする客が増えていることから、ある程度の販売数をキープできている。
	通信会社(役員)	販売量の動き	・商戦期であった3か月前と比較しても契約数は同等に維持できており、堅調に推移している。
	その他レジャー施設(職員)	来客数の動き	・毎年恒例の夏休み特別教室の集客が、前年比20%減と大きく落ち込んでいる。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注数字は消費税増税後の反動減を解消しつつある。情報量も地域格差はあるものの押しなべて上向ってきてはいる。しかし、実質可処分所得が増えていない実態から値引き依頼が強く、収支面での悪化につながる恐れがある。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・一戸建ての客の動きが鈍い。分譲住宅の売行きも良くない。並行して土地もあまり動かない。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・アウトレットモールがオープンして新鮮味のある時期なので、動きがそちらに向いている。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・消費拡大のプレミアム付商品券の販売は好評であったが、残念ながら購買意欲が増したというよりは、日々の日用品購入に使われている傾向が強く、今のところ効果は感じられない。客の財布のひもは一層固く、人も減っている。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・当商店街の売上は思うほど良くない。7月はボーナスがあり、プレミアム付商品券も発売されたため、消費は増加するはずであるが、実際にはそれほど増加していないように思う。この原因としては、やはりアウトレットモールや大型ショッピングセンターの開店が影響しているように思う。また、北陸新幹線開業により交通網が良くなり、他県での買物がしやすくなっていることも考えられる。今後の消費動向が気になるところである。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・北陸新幹線開業後初めての夏休みとなり、家族連れでの旅行が非常に活性化している。それに関連して、旅行かばんや洋服などの動きが非常に良いというのが現状である。
	百貨店(営業担当)	販売量の動き	・大型ショッピングセンターやアウトレットモールの開店により、客足が遠ざかると思っていたが、家から出たついでに当店で寄るといった人が多かったと思われる。しかし、なかなか購買にはつながらなかった。
	衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・県内に新たに2つの大型商業施設がオープンし、今は多くの集客があるため、中心街の来客数は一時的に減少していると感じる。
	乗用車販売店(経理担当)	販売量の動き	・7月の販売量は前年同月比70%である。4月の販売量は前年同月比82%だったので3か月前と比較して下向きである。
	一般レストラン(店長)	来客数の動き	・例年と比べると、観光客の動きが悪いように感じる。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・6～7月と2か月連続で来客数が前年割れをしている。地方の景気が中央に比べて悪いままだという気持ちがあります。消費にも悪影響を及ぼしている。

		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・イベント来場数、問い合わせ数共に予定数に届かず、少ない状況であった。また、今月の契約数、契約金額共に先月よりも1割程度少なかった。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・新築及びリフォームともに受注高が安定しない。潜在的顧客が動き出しておりイベントなどの来客数は多いが、競合も激しく厳しい状況となっている。
	悪くなっている	スナック(経営者)	来客数の動き	・当店では前年同月とほとんど変化はないが、やや悪い状態である。しかし、駅前周辺などは忙しいと聞いている。
企業 動向 関連 (北陸)	良くなっている			
	やや良くなっている	建設業(経営者) 司法書士	受注量や販売量の動き 取引先の様子	・4~6月の第1四半期にほとんど発注がなかった地方自治体で、7月に入りようやく発注され始めた。 ・不動産取引は活発ではないが、商業登記分野では会社設立、営業の目的追加、役員の増員などの依頼案件が増加している。
	変わらない	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注の動きは足踏み状態で、前年並みで推移している。特に国内関連のファッション衣料の動きが良くない。
		繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・前年比から、やや良くなっている。
		精密機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・今年第1四半期には多少景気の上向き感が感じられたものの、その後の状況からは特に変化の様子を感じとることはできない。
		建設業(総務担当)	受注価格や販売価格の動き	・主に首都圏では施工業者の能力が手一杯で受注競争が緩和状態となっているが、それに比べると地方では工事が減少傾向で、一部に受注価格競争の再燃が見受けられる。
		金融業(融資担当)	取引先の様子	・大型の設備投資の案件も聞かれたが、着手しているという状況であり、今後新規でどんどん出てくる感じではなく、一服感が出ている。一方で特別な悪材料もない。
		金融業(融資担当)	取引先の様子	・プレミアム付商品券の発売があり、売上が伸びているという声が聞こえる。
		不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・同業者に聞くと、半数では忙しく仕事が出てきているという話だが、もう半分はまだ不景気であるという話をしている。
		税理士(所長)	取引先の様子	・前月に比べ、少しずつだが経営者の見通しが下振れしている気がする。例えば特に中小企業で、採用面で拡大の余地のある企業でも若い人の採用がなかなか難しい事情があり、それが設備投資の萎縮にもつながっている状況である。就職環境が良くなってきている関係で、中小企業の環境は逆に、人事的な面が原因でいろいろな拡大にちゅうちょする傾向が出ている気がする。
	やや悪くなっている	食料品製造業(役員)	それ以外	・輸入原材料の平均価格が徐々に上がってきており、収益に与える影響が大きくなっている。
		一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・欧州と日本の受注量はあるが、米国の受注が厳しい状況である。
		輸送業(配車担当)	取引先の様子	・夏物関係、衣料、飲料などの動きが悪く個人消費が活発にならないため、物の動きが良くない。
		悪くなっている	-	-
雇用 関連 (北陸)	良くなっている			
	やや良くなっている	新聞社[求人広告](役員)	求人数の動き	・7月の求人広告売上は、前年同月実績をわずかに上回った。
		新聞社[求人広告](担当者)	求人数の動き	・7月に関して求人広告の個数はほぼ同数だったが、金額は昨年比で1割以上伸びた。内容は今年のトレンドのまま、パートやアルバイトの比率が下がり、正規求人や契約社員の比率が上がった。特に単価が高く内容が自由に書き込める枠の利用が増えており、少しでも目立つことで人材確保に努めようとする企業の姿勢が見える。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・一部の産業で求人数が減少しているが、全体的に求人数が増加している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数が3776人と、依然好調である。
	変わらない	人材派遣会社(役員)	求職者数の動き	・受注数は増えているが、派遣での求職者が全く伸びない。それによりマッチング率が悪い。

	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求人広告を出しても応募がほとんどないという状態が続いている。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・1回の発行につき平均で50件ほど掲載数が少なかった。
	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・求職者数の減少傾向が続いている。新規求人数も前年同期とほぼ同様の状況となっている。
	民間職業紹介機 関(経営者)	求人数の動き	・大型商業施設の開店による販売関連求人数が増加していたが、事務系の求人などは変化がなかった。
	学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・製造業とIT関連の求人を中心に求人数は引き続きあるが、出方は先月と比べても変化はない。
やや悪く なっている	-	-	-
悪く なっている	-	-	-